

# 地域メディアの開発と実践

コミュニティデザイン学科 大森玲子, 内山 勢, 山本 建

## (1) 研究背景と目的

栃木県は豊かな自然環境とそれを背景とする農用地、日光や益子等の観光資源に恵まれ、東京から100km圏内という好立地にありながら、その豊かさに安住し、地域資源の再発掘が十分になされているとは言い難い。

本研究では、県外出身者を相当数含み、これから日本社会の中核を担う宇都宮大学の学生の視点から地域資源、地域の魅力を再発見し、ウェブやSNS等のあらゆる媒体を通じて県域に止まらず全国向けに発信することで、大学発の地域ブランディングモデルの構築に向けた基礎データを蓄積することを目的とする。注目エリアは、栃木県を中心とする関係地域を想定している。

### 「地域メディア」

- ・「一定の地域をカバレッジとするコミュニケーション・メディア」田村紀雄・竹内郁郎編（1989）【新版】地域メディア論, 3頁。
- ・「自治体広報や県紙（県紙）、……地域紙、地域生活情報誌（フリーペーパー）、ケーブルテレビ、コミュニティ放送、地域NPOなど」早稲田大学メディア文化研究所編（2010）メディアの地域貢献「公共性」実現に向けて, 5頁。
- ・浅岡は、地域メディアを「地域」の類型（①地理的範囲をともなった社会的単位及び②機能的共通性に基づく社会的単位）と、「メディア」の類型（③コミュニケーション・メディア及び④スペース・メディア）のマトリクスで4つに分類し、①×③のグループとして、自治体広報、地域ミニコミ紙、県紙、県域放送のほか、コミュニティFM、フリーペーパー、地域ポータルサイト等、①×④のグループとして、公民館、図書館、公園、広場等、②×③のグループとして、サークル誌、ボランティアグループ会報、NPO等のホームページ等、②×④のグループとして、クラブ施設、同窓会報、研修所などを挙げている。→左図をご覧ください。（浅岡隆裕（2007）地域メディアの新しいかたち＝田村紀雄・白水繁彦編著「現代地域メディア論」19頁。）

		「メディア」の類型	
		③コミュニケーション・メディア	④スペース・メディア
「地域」の類型	①地理的範囲をともなった社会的単位	自治体広報、地域ミニコミ紙、タウン誌、CATV、県紙、県域放送、コミュニティFM、地域ポータルサイト 等	公民館、図書館、公会堂、公園、広場、情報センター、パソコン教室・研修施設
	②機能的共通性に基づく社会的単位	サークル誌、ボランティアグループ会報、各種運動体機関紙、NPO等のホームページ、ブログ、SNS 等	クラブ施設、同窓会館、研修所

図1 地域メディアの諸類型（出所：浅岡隆裕（2007）p. 19）

今回開発する地域メディアの領域

## (2) 研究計画と方法

### ＜実施体制＞

2016年度前期に「地域メディア演習」を宇都宮大学基盤教育科目として開講した。

#### 「地域メディア演習」

毎日新聞社から客員教授を招き、その指導の下に、地域で活躍する人物にインタビューし、関連するイベントや施設の取材とともに記事を執筆し、毎日新聞栃木県版に掲載することで、学生の課題設定能力、コミュニケーションスキル、論理的思考力を培うプログラム

- ▶ その受講生を中心メンバーとして、2016年度後期から本研究に基づく地域情報発信のためのプロジェクトチーム「とちぎキャンパル」を創設した。
- ▶ チームメンバーは、続く「地域メディア演習」のTA（教務補助）を務め、受講生のコンテンツ（テキスト、画像、動画等）制作を補助するとともに、プロジェクトチームの独自企画によるコンテンツ制作を担う（独自企画は2017年3月掲載予定の紙面から）。
- ▶ コンテンツは、紙媒体の毎日新聞栃木県版、デジタル毎日（<http://mainichi.jp/>）、宇都宮大学オフィシャルサイト（<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>）に、順次掲載している。

### ＜アクセス状況＞

デジタル毎日では、一定量のユーザーデータ（属性、閲覧時期等）を参照することが可能であり、かつ、県域を越えた情報発信が可能である。以下に、デジタル毎日にアップした記事コンテンツのアクセス状況を示す。

掲載日	「とちぎキャンパル」記事内容	PV	UU	平均滞在時間	直帰率	
前期	4月26日	宇都宮大学・地域デザイン科学部、塚本学部長に聞く	11	5	38秒	25.00%
	5月24日	宇都宮大地域デザイン科学部「地域メディア演習」受講者座談会	10	8	21秒	83.30%
	6月28日	宇都宮の魅力 女性50人アンケート 地元のイチ押し八幡山公園	6	4	23秒	50.00%
	7月26日	地元産そば、うまさ伝えたい イチゴ、ニラ、かんぴょうだけが名産じゃない!!	3	3	0秒間	100.00%
	8月23日	戦争と酒造りの足跡訪ね 珍しい「どうくつ酒蔵」 那須烏山市・島崎酒造	17	9	25秒	60.00%
	9月27日	県産木材の魅力「木工品」に生かす さくら「喜連川丘陵の里杉インテリア木工館」	12	8	56秒	57.10%
	10月25日	活気戻す「もみじ通り」宇都宮・若者の人気スポットに	68	47	14秒	64.40%
後期	11月22日	初めての新聞づくり / 受講者座談会	6	5	2秒間	-
	12月27日	トーセン・東泉社長インタビュー「母船式木流」導入 木材を安定供給	50	30	31秒	57.10%
	1月24日	高根沢町職員・小林洋城さんに聞く 農産物で商品開発 PRイベント軌道に	110	64	1分2秒	54.80%

図2 「地域メディア演習」で制作した記事コンテンツへのアクセス状況（図中の「PV」はページビュー、「UU」はユニークユーザーを示す。）

- ▶ 前期は、受講生にテーマを自由に選ばせたため、記事コンテンツの構成がやや散漫になった。反省を活かし、後期は、取材先を講師側で複数提案し、受講生が選んで取材する形式に変更し、構成にも積極的にかかわるようにした。
- ▶ 記事は、インタビューのみで構成せず、具体的なイベントなどを取材し、別稿として情報のリッチ化を図った。

## (3) 成果の地域活用

「地域メディア演習」の授業の締めくくりとして、前期の最後の2コマ（2016年7月16日）と後期の最後の2コマ（2017年1月28日）を使って、受講生の成果報告会「大学生からみたとちぎの魅力語り場」を実施した。

- ▶ 宇都宮大学公式サイトや地元紙等で開催を告知したところ、地域住民や自治体関係者らが参加し、栃木県の魅力について語り合った。
- ▶ 成果報告会の模様をまとめた動画コンテンツを、地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科のFB上で公開し、大学生の視点でみた地元の魅力について地域へ還元した。
- ▶ 今後も、コミュニティFMでの番組提供や、社会人向け公開講座などを行い、地元住民を巻き込んだ情報発信を加速させ、大学発の地域資源を核とした地域活性化に努める。



成果報告会の様子をまとめた動画 ※コミュニティデザイン学科FBで公開中

第1期チームメンバー

2016年度後期の「地域メディア演習」授業風景（チームメンバーがTAとして、受講生に助言する）

チームメンバー

- ① 大森悠司さん
- ② 小松友広さん
- ③ 渡辺美和子さん
- ④ 鈴木奈々さん
- ⑤ 熊田 絢さん

地域メディア演習の受講生が制作した記事

上：デジタル毎日  
下：毎日新聞栃木県版

農産物で商品開発 PRイベント軌道に